

日本の流ホテル



prestige hotels in Japan

本物の贅沢と 最高のもてなしを味わう

THE RITZ-CARLTON



特別な日を身近になった高級ホテルで過ごす!

厳選20ホテルの各種プラン・情報を
網羅したビジュアル版・実用ガイド!





語 物 の ル テ ム の 目 番 四

ユニークなスタッフが創り上げる快適個性空間

ヨコハマグランドインタールコンチネンタルホテルには、名物スタッフがたくさんいる。失礼ながら、ホテルスタッフというカテゴリーに納まりきれない、ユニークなスタッフの集まり、といっても過言ではない。総支配人の田中氏からしてユニークだ。彼はスタッフが他のホテルに行くことを、止めないまでも勧めないのだという。

「他のホテルを見てどうするの？ いい企画があったとしても、真似すれば一番煎じむしる他業種を見ていらっしやいよ」

田中氏は「30代は室料30%オフ、100歳はタダ」というユニークな年代割引を導入したことで知られるアイディアマン。日本で一番早くインターネット予約をはじめたのも彼の決断だった。田中氏に続けとばかり、ホテル内にはアイディア勝負のツワモノがそろろう。営業担当の石原氏は、ホテル業界のザ・セールスマン・オブ・ザ・イヤーに選ばれた。彼の提案で生まれたのが30階の「ダイニングサロン」だ。宿泊を目的としない部屋を時間単位で個人に貸すという企画はあるようではなかった。パーティーや会食など目的によりサイズ別に6つほど用意され、35名くらいまで収容可能という使い勝手のよさだ。パーティーやクラス会などで手軽に利用できるメリットがあるためか、稼動状況も上々だ。

さて、このホテルには、ベスト・ホスピタリティー・オブ・ザ・イヤーを受賞したコンシェルジュもいる。阿部佳さん、というその女性は、しかし意外なことにコンシェルジュになってまだ10年、それまでは研

究職に近い仕事をしていたという転職組だ。「学生るとき、ホテル業界でコンシェルジュとして働くことを希望していたんですが、先輩に『まだ日本のホテルにコンシェルジュの仕事はない。10年待ったほうがいい』といわれて。でもその間、異業種に身を置いたことが今、本当に役立っています」

コンシェルジュというのは、ほぼオールマイティーにどんなリクエストにも応えるのが本来の仕事。ゲストの真の要望を聞き出し、可能な限り力になるのが信条だ。だから人脈と引出しの多さが勝負となる。

「東南アジアからのお客様から、日本の金魚を持って帰りたいと相談されて。たかが金魚1匹ですが、持って帰るとなると水温、水槽の設備、法律問題、空港の検疫など、クリアしなければならぬハードルが山ほどあるわけです。もう、半分意地ですよね。電話にしがみついて連絡を取りまくり、解決したときは本当にうれしかった」

コンシェルジュの仕事の範囲はその場で解決できることまで。しかしそれは裏を返せば電話で解決できることなら何でも、ということでもある。まさにホテルの「よろず相談所」なのだ。

スタッフが個性的なら施設も個性的。ホテルには、彼らのスピリットを反映させるかのようにユニークな部屋がそろろう。女性専用のレディースフロア、アジアンリゾートに在るかのような錯覚に陥るアジアンフロア、さらに出色なのが、人気のブランドづくしのインテリアで有名なブランドスイート。パーバリー、リパティなど憧れのプ

ランドの定番デザインが、壁、寝具、家具など統一感あふれるコーディネートでゲストを包み込む贅沢空間だ。贅を尽くしたホテルでも、いったん客室に入ってしまうと平凡で、おもしろ味に欠ける、という不満はここにはない。

横浜の真つ青な海に、リップステイックのように屹立する姿が目立つこのホテルは、内も外もユニークな夢空間なのだ。

ホテルの前の船着場に浮かぶ海鮮びすとろ「ピア21」。手軽な料金設定、夜にはファンタジックな夜景が楽しめるデートの穴場だ。





ホテルは最高のステージ
 スタッフはそこで
 一流のエンターテイナーになる



上/クラブ・インターコンチネンタル・
 フロアのラウンジ。朝食やドリンクサー
 ビスがある。

下段右/ザ・セールスマン・オブ・ザ・
 イヤーに輝く石原さん。ダイニングサロ
 ンにて。

下段左/アトリウムロビーに立つ阿部さ
 さん。ザ・ベスト・ホスピタリティ・オブ・
 ザ・イヤーを獲得した名コンシェル
 ジュだ。